

深小っ子《十一月》暗唱千しゃしんじ

今月の暗唱課題は、『平家物語』です。平家物語は、鎌倉時代にできたと言われている物語です。言葉は難しいですが、リズムよく読んでみると、意外と覚えやすいかもしれません。

今月も、合格目指してがんばりましょう。

『平家物語』

祇園精舎の鐘の聲、
諸行無常の響きあり。

沙羅双樹の花の色、
盛者必衰のことわりをあらわす。

おごれる人も久しからず、
ただ春の夜のごとし。
たけき者もついにほろびぬ、
ひとえに風の前のちりに同じ。



(意味) 祇園精舎（釈迦のために建てられた寺）にある鐘の音は、この世には常がなくすべては移り変わっていくのだという響きをたてる。（釈迦が亡くなられたときに白色に変わったという）沙羅双樹の花の色は、まるで盛んな者も必ず衰えていくという道理を表す。おごり高ぶった人もいつまでも続くわけではない。（そのはかなさは）ただ春の夜の夢のようである。強く勇ましい者もやがてほろんでしまうが、（それは）まったく、風の前のちりのようなものである。